

臨地実習における看護系大学生のケア実施に伴う  
看護上の判断育成に向けた臨地実習指導者の関わり  
：成人看護学（急性期）実習に着目して

Interaction of Clinical Instructor to Develop Nursing Judgment  
Ability by Nursing College Student Accompanied With Patient Care  
：Focusing on Adult Nursing (Acute Stage) Clinical Practice

阿部 オリエ  
Abe, Orië

2019年度 博士（看護学）論文

主研究指導教員：本田 多美枝

日本赤十字九州国際看護大学大学院

看護学研究科共同看護学専攻

## 要約

### I. 研究目的

本研究では、臨地実習における看護系大学生の看護上の判断を育成するために、学生と共にケアを実施している臨地実習指導者に焦点をあて、臨地実習指導者が、学生の行う受け持ち患者へのケア実施に伴う看護上の判断をどのように捉え、学生に関わっているのかを明らかにすることを目的とした。

### II. 研究方法

研究デザインは、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA と略す）を用いた質的探索的研究である。研究参加者は、成人看護学（急性期）で実習指導にあたる臨地実習指導者とし、人数は20名程度とした。半構造化面接でデータ収集を行い、データ分析は、分析ワークシートを用い、データ収集と同時並行で進めた。

### III. 結果

学生のケア実施に伴う看護上の判断育成に向けた臨地実習指導者の関わりは、ケア実施前の〈学生を患者理解に引き寄せたすり合わせ〉、ケア実施中の〈患者の安全を前提とした上での学生とのケア実施〉、ケア実施後の〈学生の意識化を促し患者の状態理解へとつなげていく〉というプロセスで示された。

### IV. 考察

学生の看護上の判断育成に向けて、臨地実習指導者は、学生が主体的にケアを実施することによって学ぶことができるであろう、ケア実施中の看護上の判断を予測して、ケア実施前から万全に整えるといった一連の関わりを行っていたと考える。一方、ケア実施後に臨地実習指導者は、学生に対して、患者の状態の可視化を行い、学生個々の知識と患者の状態を緻密につなげていた。また、臨地実習指導者は、学生とケア実施を共有することにより、学生のケア実施に伴う看護上の判断育成に向けて、その時その場でインプットすべきことを見極めていた。このように、学生がケア実施に伴う看護上の判断を行う際、ケア実施前に臨地実習指導者は、ユニットの環境を熟知し、患者との信頼関係を構築している強みを活かしながら学生への関わりを行っていたと考える。

本研究の知見は、課題が多いとされている現在の臨地実習指導の中から描き出されたものであり、シミュレーションでは学ぶことができない患者への看護上の判断を育成するにあたっての指導モデルとして活用できると考える。

### V. 結論

学生のケア実施に伴う看護上の判断育成に向けて、臨地実習指導者は、学生自身で看護上の判断ができるよう、ケア実施前、実施中、実施後に一貫したプロセスを伴う関わりを行っていた。本研究結果の知見より、学生のケア実施に伴う看護上の判断育成に向けては、看護上の判断自体の妥当性を検討するためにも深い患者理解と、判断するという1点だけではなく、継続的な学生へのおさえが不可欠であることが示唆された。